

かけがえのないグローバル パートナーをめざして

1965年に誕生したアイシン精機を核に、多様化する自動車業界において高い技術力を発揮するために分社化を進め、各社が専門の事業領域に特化することで、鉄やアルミ、樹脂などの多様な素材から、クルマの「走る」「曲がる」「止まる」といった自動車を構成する要素のほとんどをカバーする企業グループへと成長してきました。



※ アイシン精機を含む
※ この他に持分法適用会社10社
(2016年6月30日現在)

1965-1974

アイシン精機誕生

自動車部品メーカーとしての体質強化、国際競争力の強化を図るため、1965(昭和40)年、愛知工業と新川工業が合併。「アイシン精機」が誕生。

量産体制の確立

自動車生産の急拡大に応えるため、生産力増強を実施。

技術の自立を求めて

自主技術を確立するため、技術開発研究所の開設、試験場の建設、欧米メーカーからの積極的な技術導入など、急ピッチで技術力の向上を推進。

海外事業の基盤づくり

自動車部品の輸出拡大と、国際企業としての躍進に備え、海外事業の基盤づくりを推進。

1975-1984

品質至上の追求

TQCによる企業体質強化に努めるなか、デミング賞、N賞、PM賞、PM特別賞のTQC部門・TPM部門での4冠を受賞。

カーエレクトロニクス時代へ

カーエレクトロニクス化の急速な進展に応えるため、従来のメカニクスにエレクトロニクスを取り組んだ新体制をスタート。

未来技術開発の研究ネットワーク

21世紀の社会を見据え、基礎分野をテーマにした研究室を展開するなど、独自の研究体制を構築。

1985-1994

海外生産の本格化

1985(昭和60)年のプラザ合意を受け、アイシングループも海外での本格的な生産を開始。

先端技術分野での新展開

未来技術研究が開花し、エネルギーや医療機器分野で新製品が誕生。グローバルな研究ネットワークを整備。

1995-2004

海外事業体制の拡充

現地生産の本格化に伴い、「市場のあるところへ自ら進出する」ことを方針に、北米、中南米、欧州、ASEAN諸国、中国などで生産・販売体制を強化。

エネルギー分野開発の取り組み

燃料電池、太陽電池などの新たな開発テーマへと発展。地球温暖化をはじめとする環境問題を解決していくため、実用化に向けた取り組みを推進。

持続可能な社会をめざして

持続可能な社会の実現は企業の社会的責任であるとして、地球環境保全を重要な経営課題と位置つけた全社的な取り組みを開始。

2005-

グローバル事業の拡大と自立化

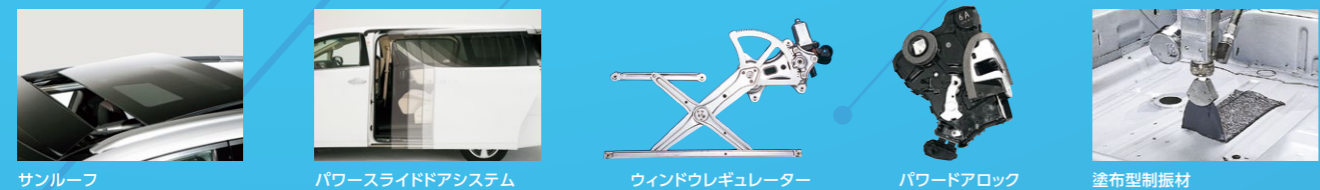
ビジネスのグローバル化に伴い、グループ連携の強化とともに、開発設計から生産、販売まで、各地域で自立できる事業体制づくりを推進。

アイシングループの主な商品群

パワートレイン領域



車体領域



走行安全領域



L&E領域

